

# 社会課題の理解者を100人生み出す 研修プログラム

特定非営利活動法人 子育てネットひまわり

〒761-8077 香川県高松市出作町 382-1 酒井ハイツ 110

## 助成事業の概要

### 【実施目的】

多様化する子育て家庭における課題に対応する力を養うため、子育て支援の現場でスタッフが課題と感じているテーマをもとに月1回スキルアップの場を提供。法人スタッフだけでなく、ママサポーターやボランティア、子育て支援に関心を持つ地域の方の参加も募り、今後の担い手となる人材育成も目的とした。

### 【実施時期・内容等】

#### ■4月17日（火）

「理想のWLBを実現するタイムマネジメント講座」

講師 ポテンシャルビジョン 山本 武史

「知っていますか 介護の基礎知識」

講師 ケアマネジャー 四軒家 啓介

#### ■5月15日（火）

「キャリアアップで自己肯定感アップ」

講師 太田社労士事務所 谷川 由紀

「婚活支援から見てきた日本の課題」

講師 縁結びばーテンダリー 管東 佑衣子

#### ■6月19日（火）

総会 ひまわり活動紹介

「伝わる力が数倍アップのテクニック」

講師 ポテンシャルビジョン 山本 武史

#### ■7月17日（火）

「伝わる写真で集客アップ」

講師 Mon Bebe 三船 知佳

「伝わるチラシ・ポップをつくろう」

講師 有限会社デジタルモリス 福田 茜

#### ■8月21日（火）

「とことんあそぼ」

講師 遊び集団クロッシング 金川 直美

「マンダラートで目標設定」

講師 徳田 昌志子・橋口 利江

#### ■9月18日（火）

「浦島太郎に学ぶ発達障がい児の支援」

講師 香川県立中央病院 宮本 寛

「組織の力を引き出すIT活用」

講師 Office123 谷 益美

#### ■10月16日（火）

「職場で・家庭で生かすファイリング術」

講師 いずみ なみか

「NPO 会計事務について」

講師 税理士 岡 憲一郎

#### ■11月20日（火）

「屋島おもてなしツアーの実践から学ぶ」

講師 東交トラベル株式会社 川畑 亮

「高松市の保育資源の現状と課題」

講師 たかまつ地域子育て支援コーディネーター 三宅 理絵・岡田 碧

#### ■12月18日（火）

「地域とのつながりをどうはぐぐむか」

講師 高松市社会福祉協議会 淵崎 義之

「アイスブレイク実践講座」

講師 たかまつ地域子育て支援コーディネーター 三谷 愛

#### ■1月15日（火）

「子どもの貧困コーディネーター取り組みから」

講師 高松市社会福祉協議会 石田 盟人

## ■2月19日（火）

「いのちのおはなし」

講師 いのち咲かせたい代表 山本 文子

「就園・就学を見据えたサポート」

講師 香川大学 山本 木ノ実

## ■2月26日（火）

親育ち子育て講座

「ノーバディズパーフェクトプログラム」

講師 中村香菜子・金川直美

## ■3月19日（火）

「ペアレントトレーニングの実践から」

講師 香川大学医学部 鈴木 裕美

「次年度に向けてフレームワーク目標設定」

講師 徳田 昌志子

## 事業の成果

月に1回の研修の機会は自己研鑽の場でもあり、同時に、団体としての活動を見つめ直す時間となった。多分野にわたる内容を学ぶ中で、子育て支援者としての自分自身のふるまいや団体活動のあり方を客観視できる機会を持ち、今までと違った視点から子育て支援について考えることでスタッフそれぞれの視野が広がった。

スタッフだけでなく、日頃子育てに忙しく学ぶ機会が少ない母親が、身近な社会問題に目を向けて学べる場を提供した。託児をつけてゆっくりと学ぶ時間が母親のリフレッシュにもつながり、今後の就労への意欲やキャリアアップへの希望へとつながったのも大きな成果と言える。

また外部参加を募ったことで、今まで拠点を訪れたことのない人々が足を踏み入れるきっかけにもなった。子育て世代だけでなく、よりたくさんの人に拠点の持つ役割や子育て支援の必要性を肌で感じ取ってもらうには、このような開かれた場を持つことが必要である。

社会福祉や地域との連携をテーマにした研修で

は地域資源を知ることから始まり、地域とつながることの素晴らしさを改めて感じた。日々子育て支援の現場に直結する、親子の関わりや子どもの発達などの課題に意識が向けられることが多いが、その背景には家庭を取り巻く環境や国、地方自治体の制度についてなど、さまざまな社会問題が潜んでいて、そのためにどのようなサービスや支援が整備されているのかを知り、またそこに携わる人の思いにも触れることができた。「地域とのつながりはなくても困らない。けれども、つながることで支えになったり、楽しみが生まれたりする」という言葉が印象的だったが、子育てにも大いに言えることである。一人で抱え込むのは苦しいが、地域の中で子どもたちを健やかに育てていくという場があれば支えになる。そんな場作りになっているのだという使命感を持ち、地域行事への参加や地域の人々と協力して作り上げたチャリティーバザーの開催など、積極的に地域連携を目指していった。

写真撮影・チラシ作成・ファイリングなどの研修は、その学びを実践的に生かすことができた。ひまわり通信の原稿作成の写真やキャッチコピーが利用者の目を惹くものとなり講座の申し込み者が増えた。また、コミュニケーションやタイムマネジメントの講座はスタッフ一人一人の仕事の質を高め、作業効率の向上につながった。

現場スタッフから一番要望が多かった子どもの発達についてのテーマについては、発達に凸凹のある子どもへの支援や親育ちプログラムの実践についてなど、経験豊かな講師から現場での事例をもとに学ぶことができ支援の幅が広がった。実際に拠点での相談援助のケースは多岐にわたり、子どもの育ちについて内容も増えている。正しい知識、適切なかわりを学ぶ場、利用者をつなげていく他機関との連携を育む場としても本事業での研修は実り多きものだったと言える。

## ■ 成果の広報・公表

1. 研修開催については事前にチラシをひろばに掲示し、子育て中の親に呼びかけた。また団体のHP・Facebookでも発信し、外部からの参加を募った。

2. 子育て世代に特に届けたい内容については団体が発行する情報誌「ひまわり通信」に掲載。

○ひまわり通信カラー印刷 2000部発行

○配布場所 地域のコミュニティーセンター・市役所・近隣の子育てひろば・支援センター・小児科・産婦人科・近隣のスーパーなど

3. 本事業のFacebookグループページを作成し、各月の研修内容や詳細を載せるとともに、研修報告や参加者の感想を掲載した。ひまわり通信を見る機会のない世代はSNSを通じて参加につながるが多かった。

またスタッフの視野を広げるために、外部視察研修も行う予定。

さらに広報にも力を入れ外部参加者も増やし、ボランティアやこれからの子育て支援を担う人材育成にも努めていきたい。

## ■ 今後の展開

本事業を通してスタッフのスキルアップだけでなく、子育て中の母親、子育てに関心のある地域の人々の学びの場を提供することができた。子育て家庭が抱えるさまざまな社会問題を多くの人が知り、一緒に解決したり、支えあったりできる関係性を築く場にもなった。直接的な支援でなくても、たくさんの理解者が子育て家庭を支える社会になるよう今後もこのような研修事業を継続して開催していきたい。

今後も月に1回第3火曜日に午前・午後と2部構成で学びの時間を作る。

内容は多胎育児支援・高齢者福祉について・ひとり親の支援・産褥期の支援・あそびについて考える・LGBT・子どもの発達について・ダブルケアについてなど、現代社会が直面している社会問題に目を向け、更なるスキルアップを目指した研修内容を考えている。